

DRUG topics

発行所 **株式会社 ドラッグマガジン**

本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-3-15共同ビル 電話03(3241)4661
大阪支局 〒541-0044 大阪市中央区伏見町2-3-4ホンダビル 電話06(6202)0560-0569

http://www.drugmagazine.co.jp/

発行日 毎週1回月曜日発行 購読料 1か年19,656円(消費税込み)

CFSの薬剤師がボランティアで参加 広島大学実施の「健康測定」盛況

薬剤師の職域拡大と薬学生のDgS業態認知向上に寄与

CFSコーポレーション(本社神奈川県)の薬剤師三十四人が、広島大学が現在西日本中心に実施する疫学調査・研究事業にボランティアとして参加した。それは、九月十五・十六の両日、神奈川県内で開催された「ハックドラッグ健康と美の祭典2012 in かながわ」(主催テレビ神奈川、特別協賛同社)でのこと。「臨時研究室」と題した会場には会期中、多くの生活者が健康測定に訪れた。「地域コミュニティの発信基地としてのドラッグストア(DgS)」を目指す同社と、薬学生が将来、活躍できる場の一つとしてDgSを捉える教育側の思惑が見事に一致した形だ。求められるDgS薬剤師の仕事に対する意識変革と職域拡大への期待が高まる。

この健康イベントへのえること、自社薬剤師 関する数値をさまざまに 参画で、CFSコーポレ や管理栄養士の職域拡大 測定してもらい、われわ ーションが真の目的とし を図り、「地域コミュニ ねと一緒に健康について たのが、店舗展開する地 ティ」の場をDgSが創 域の生活者の健康管理は 造ることのアピール 「ハックドラッグ」が担 だ。



石田岳彦社長

同社石田岳彦社長は 「ただ商品サンプルを配 布するだけのイベントに はしたくなかった」と前 置きした上で、「専門性 に一歩踏み込んだ取り組 み、生活者自身の健康に



薬学生とともに業務も



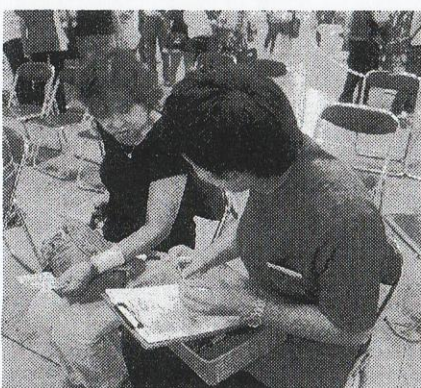
地元の健康イベントで生活者に DgSの役割と存在意義アピール

考えてもらうことを重視 した内容とした」と、そ の意図を説明する。 その表れの一つが今 回、別枠として設置され た広島大学薬学部を進め る「マイクロTDM」を 活用した生化学検査での 情報提供」だ。今回は、 自己採決法で来場者自身 の指先から微量の血液を 採取、主にHbA1c(へ

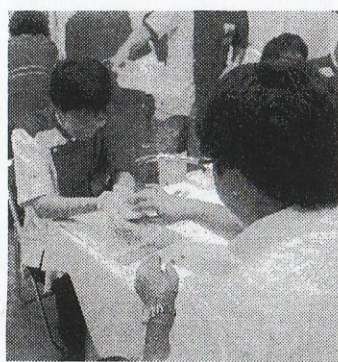
するサポートを通じ、その 簡便性・安全性を体感 してもらおう取り組みで、 同社はボランティアとい う形で薬剤師が参加する ために「TDM研修」を 受講、大学側の承認を得 て参加している。 事前に希望者へのアン ケート調査を行い、さら に血液採取に関する説

地域コミュニティ創造へ 「ハックベリリー」業態推進

一方、「臨時研究室」としてこうした健康フェ アで調査研究事業を推進 多くの生活者が、『何も する広島大学側でも、薬 行かかに分かれること。 学生を将来を見据えた取 組みとして重視する。 その中間はない。この部 分を薬局・DgSが担う 責任者の同大学大学院 教授の森川則文氏は、こ べき。このことを薬学生 かつた疫学調査の重要性 にもしつかり理解させ、 とともに、これに参加す Sの役割・重要性に気付 いてもえれば、活動領 域の拡大にも つながる。そ のためにもこ の研究の必要 性を感じてい る。当大学は 測定機器を千 台も保有して おり、各種イ



測定業務でも事前アンケートでも 会話が必要。生活者個人に触れる ことで個人への理解につながる



「今は法的な規制があ るが、DgSは将来的に こうした、より生活者に 踏み込んだ活動をしてい かなければならない」(石 田社長)

明、数値結果に基づき、 は今後の薬剤師の職域拡 大につながる」とし、その 検査項目の意義を、じつ くり一人の生活者向き 重要性を認識している。 合う経験は、まさに同社 実際、来場者の反応も が狙う「地域コミュニテ 良く、同社ではこれが地 域コミュニティの形の一 つと考えている。

「この経験 につなげる」とい う。 今後の展開について石 田社長は「地域の基幹店 をこの業態に順次変えて いく。十店に一つの割合 となる」と明言する。

同社がこうした取り組 みの先に見ているもの の一つに「在宅」がある。 「現在十拠点で展開し ている。 地域連携の話も多々ある が、今はその全てに対応 できる体制ではない。今 回のイベントなどを通じ て薬剤師が「人と触れ合 うことの大切さを学び、 というコンテンツだ。

同社はその意図を「少 本格的に取り組みたい」 という話をする。石田社長は、 このイベントを、自社だ けでなく今後のDgSの 在り方も問われている、 と指摘する。

「今は法的な規制があ るが、DgSは将来的に こうした、より生活者に 踏み込んだ活動をしてい かなければならない」(石 田社長) 今回の「健康と美の祭典」への参画は、同社に とっての大きな転換点と なりそうだ。 【本紙編集部 磯雅之】